

エジプトアラビア語における親族呼称表現とその待遇性の研究

—親子・兄弟姉妹間の表現に関するアンケート調査結果を中心に—

キーワード： エジプトアラビア語 親子・兄弟姉妹 親族呼称 待遇表現 アンケート調査

エシーバ ムハンマド

(千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程)

1. はじめに：

本稿では、エジプトアラビア語における親族¹呼称表現とその待遇的機能についてのアンケート調査の結果を紹介し分析する。本稿で紹介するのは、2016-2017年に行ったアンケート調査の一部である親子・兄弟姉妹²同士の、家庭内外の場面における親族呼称表現や、尊敬を表すための待遇表現の使用状況等の調査結果とその分析である。以下の2.でアンケートの概要について述べるが、アンケートの内容と方法などについては、エシーバ(2017)で詳しく述べており、アンケートの一部の調査結果(夫婦間の親族呼称表現)についてもここで紹介している。

本稿での親族呼称表現の対象となるのは、親子と兄弟姉妹(兄弟姉妹と近い年代の親族の人も対象)であり、対象となる場面としては、家庭内と、家庭外(他人の前)である。アンケートで該当する質問は、親子では6問、兄弟では4問、合計で10問になっており、それぞれについて以下の表1から表10で紹介する。各質問において回答選択肢が複数あり、多くの質問で複数回答が選択可能になっている。本課題に関するエジプトアラビア語における呼称表現に関する先行研究は数少なく、以下で紹介する内容は、主に上記のアンケート調査の結果の提示とその分析である。更に、エジプトの社会と文化、そして言語(文語のアラビア語と口語のエジプトアラビア語)の相互関係などについて論じつつ分析を進めていく。

2. アンケート調査の主な内容と方法：

本節では、エシーバ(2017)でのアンケート調査についての紹介を行いながら、アンケートの主な調査内容と方法について説明する。

2.1. アンケート調査の内容と目的：

本アンケートは、アラビア語を母語とするエジプト人を対象に行われ、「エジプトアラビア語における親族呼称表現」についての44の質問から構成されている。本調査の実施場所及び対象地域は、エジプトの首都カイロ及びカイロ以北のナイル川デルタ地方(都市部と農村部)である。エジプトアラビア語には、地域社会とその文化を代表する多様な方言があるが、大きく分けると、

¹ 本稿での「親族」とは、主に身内で血縁・婚姻関係にある親戚のことを指すという扱いになるが、エジプト社会としての解釈では、親族の同様の関係にある親族以外の親戚人や近所の人や友人等も含まれることがある。

² 本稿では、兄弟姉妹という言葉を中心に使用しているが、その中にも兄弟姉妹と近い年齢と立場の親戚の人も含まれる場合がある。

都市部の方言と農村部の方言のふたつになる。カイロとデルタ地方間の距離が短いためか、それぞれの地域の方言の違いはそれほど大きくなく、発音の変化や特定の限られた単語の違いに過ぎない。その一方で、それぞれの地域社会の特色を持つ伝統文化や価値観等の差は大きい。

本調査では、エジプトアラビア語における親族呼称表現について、その表現が持つ待遇性の観点から調べることを目的としている。本稿で紹介する内容は、アンケート調査の一部である、家庭メンバー同士の呼称表現の「親子・兄弟間の呼称表現」についてであり、それぞれの呼称表現の背景にある言語・文化・社会的特徴について分析し、明らかにすることを目指している。

2.2. アンケート調査の方法：

本アンケートは、2016年12月より3ヶ月間に渡り、エジプトの首都であるカイロ（首都圏地域も含めて）とアレキサンドリアの大都市の他に、カイロ以北のデルタ地方の都市部と農村部の市町村で、紙媒体とインターネット経由の二種の方法によって実施された。紙媒体とインターネット経由のそれぞれの数は、紙が119人でインターネットが122人であり、ほぼ同じ割合になっている。これらの二種の方法を導入した目的は、できる限り多く、そして多様な対象者に回答してもらい、より正確な結果を得るためである。インターネット経由の調査については、対象者に対してアンケートにアクセスできるリンクの情報がメール等で送信され、そのリンクが届いた人しかアクセスできないようになっている。一方、紙媒体のアンケートについては、各対象者への直接の手渡しや郵送等の方法が主な方法であった。

次に回答方法について説明する。まずは、すべての質問への回答方法は多項選択式になっている。また、回答者にとって質問への回答がしやすいように、一部の単数回答の質問を除き、多く質問において複数回答の選択が可能になっている。そして、より正確な結果が得られるように、多くの質問において選択可能な回答選択肢から複数選択ができるように設定されている。そして、選択可能な回答選択肢の中に該当する回答がない場合は、「その他」という項目も設けられており、回答者がその詳細な説明や新しい回答の記入ができるようになっている。

そのため、ある質問では、回答者が241人でも、回答総数がその回答者数の倍以上になることもある。以下でも紹介するが、回答選択肢が多ければ多いほど、複数回答の選択が増え、一人の回答者が少なくとも2つ、もしくはそれ以上の表現を使用すると回答している場合もある。

2.3. アンケート回答者の基本情報：

本アンケートの対象者は、エジプトの首都カイロ及びカイロ以北の地方に位置する都市部及び農村部の出身者241名である。男女の割合がほぼ同じ割合になっており、男性がわずかに多く、51%であるのに対し、女性が49%である。この男女の均等な割合は、調査の結果において極めて好都合なことであり、エジプト人口の実際の男女の割合と同様の割合であることから、より正確で客観的な結果が得られると言える。

回答者の年齢層については、30代が最も多く4割を占めている。次に多かったのが20代で36%になっており、20代と30代を合わせると、全体の約4分の3を占めることになる。40代は、1割を超え11%で、50代が6%であった。その他の年代については、20歳未満は1割未満で、60代以上も極めて少なく1人しかいなかった。20代と30代が最も多かった理由は、インターネット利用者の殆どが若者³だからであると考えられる。

回答者の結婚歴については、既婚者⁴が約3分の2の67%を占めているのに対し、独身者が32%であった。回答者のおよそ5割の人が大学を卒業しており、3割近くの人が大学院在学もしくは大学院卒である。高等教育の学歴がある回答者を合わせると、全体の約8割を占めることになる。残りは、「高等学校及びそれに同等するレベルまでの教育を受けている」で17%を占めている。回答者の職歴については、6割近くの人が公務員と答え、会社員や自営業と答えた人が2割を占めており、合計約8割の人が社会人である。その他の回答者は、「学生」と「無職」でそれぞれ1割を占めている。

エジプトは、都市部と農村部という二つの地域的類型に大きく分けられている。その他の少数派のエジプト人には、「ベドウィン」と呼ばれる砂漠住民や、エジプト南部地方に居住する「ヌービア」などの人たちがいる。その人たちには、独自の伝統文化があり、都市部や農村部の方言と大きく異なった方言（ベドウィン方言）を使用したり、独自の言語（ヌービア語）を日常会話で使用したりすることがある。

本調査の回答者の出身地域について、都市部には大都市である首都カイロ及び首都圏エリアと、第二の首都とも言われる地中海に面しているアレキサンドリア、そしてその他のカイロ以北の主要都市が対象となっており、その割合が全体の約3分の2で65%を占めている。これに対して残りの35%は農村出身者である。都市部の回答者が多かった理由については、本調査の実施方法の一つがインターネット経由の方法で、インターネット利用者には都市出身者が多いということが挙げられる。

3. エジプトアラビア語における親子・兄弟間の親族呼称表現の例：

ここでは、エジプトアラビア語における親子・兄弟間の親族呼称表現の具体例について紹介する。使用頻度が高い表現を集中的に説明し、その使用状況と社会・文化的背景についても説明する。

エジプト社会における呼称表現は、話し手、聞き手、第三者の参加者といった人間関係、地域とその伝統文化、そして場面の条件等の要素によって選択される。また、上記の要素に関する詳細な条件と背景によって、使用される表現とその敬意度が異なると考えられる。人間関係につい

³ 現在のエジプトは若年層（15歳以上45歳未満）の割合が非常に大きく、エジプト政府が発表した『EGYPT IN FIGURES』という統計データによれば、人口の約半分（49.1%）が若年層であるとしている。

⁴ 本質問の回答選択肢には、「既婚、婚約、独身」の3択があり、ここでは、基本的に「婚約」と答えた人も既婚者としてカウントしている。

ては、会話参加者の性別、年齢、社会的地位、親疎関係、そして学歴などの条件が挙げられる。これらの条件によって、適切な表現と敬意度のレベルが決まり、会話参加者同士による適切な表現の選定とその敬意度の調整が必要になってくると筆者は考える。以下、その詳細な使用状況と、待遇的機能とその変化の調整などについて紹介するが、その前に、現代エジプト社会におけるエジプトアラビア語の多様な親族呼称表現の例と、その使用上の特徴と背景について紹介する。

3.1. 子供から親への呼称・言及の表現の例：

子供から親への表現には、通常の親族語である「お父さん、お母さん」を表す表現が直接の呼称表現として使用されるが、エジプトアラビア語では、日本語と同様にその両親を指す言葉が複数あり、地域の方言や表現の使用者の年代などによってその表現が異なってくる。エジプトでの両親を指す直接の親族語の例としては、都市部の大部分、そして農村部の一部では、「**Ba:ba**⁵/**Ma:ma**=パパ/ママ」、農村部では、「**A:ba**/**Amma**=お父さん/お母さん」という表現が代表的である。それぞれの地域では、家庭の様々な状況と（子供である）話し手の年齢などによって使用される表現が異なり、都市部でも農村部でも両方の表現が使用されることが確認されている。

また、直接の親族語以外の伝統的な表現が複数存在し、地域の違いを超え、広く使用されている。例えば、「**hagg**=（メッカに）巡礼にいったことがある者（男性）、**haggah**=（メッカに）巡礼にいったことがある者（女性）」という表現がある。この表現は、元来、実際にメッカに巡礼に行ったことがある人に対して主に使用される表現であったが、現在は、実際に巡礼に行ったことがなくても、中高年で年上の相手に対して使用される場合もある。特に、伝統的な民族衣装である「**Gallabiyah**=ガラベーヤ」などの服装をしている人に対して、敬意を示すために使用されることが多い。しかし、このような表現は、現在、特に若者の間では、上記の使用範囲と目的より広い範囲と条件で使用されるようになってきている。巡礼とは無関係に両親に対して使用する人もいれば、年下の相手に対しても使用する人もいるのがエジプト社会の現状である。また、先ほどの服装やそれに伴う外見上の判断とは無関係に、多様な年代の相手に対して使用されることが増えてきている。当表現が近年使用されるようになった相手の例としては、両親や、話し手とは年齢の差が大きい両親同等の立場及び同等の年齢層の人が挙げられる。特に父親に対して「**hagg**」の前に、「**ʕam**=おじさん」という言葉を加え、直接の呼称、そして言及の表現として、「**ʕam Elhagg**=巡礼者のおじさん」という表現が使用されることもある。

親や目上・年上の相手に対しての上述のような呼称表現の不適切な使用は、宗教関係者や教育者などによって「乱用」だとして問題視され、批判的な態度を示す人が少なからずいる。宗教や教育の面から、特に両親、そして目上・年上の人への尊敬を込めた丁寧な表現の使用を呼びかける人もおり、エジプト社会における呼称表現の使用に関心を持っている人は少なくなく、特に若者を対象に、宗教施設やメディアなどを通して宗教と社会の伝統文化に沿った丁寧な表現の使用が呼びかけられている。

⁵ 本稿でのアラビア語の言葉の表記方法について、主に IPA（国際音声記号）によって記されている。

また、「hagg/haggah」の年齢上の条件に関して、相手が年上であるのが基本の条件であるにもかかわらず、近年年下や同僚・同級生等に対して使用されることが増えている。尊敬の意が含まれない場合もあるという使用方法も多く、特に若者の間では一般化してきていると思われる。このような使用方法について、話し手の意図はさまざまであると思われるが、有力な理由として考えられるのは、相手が年下や同年齢の相手でも、呼び捨て、敬称や個人名での呼称を避けようとしているということが考えられる。この場合は、先ほどのいずれもの表現の機能を含まない「hagg/haggah」の新しい使い方になると言える。

3.2. 親から子供への呼称・言及の表現の例：

親による子供への表現について、エジプトアラビア語のみならず、普遍的な現象として共通すると思われるのは、子供の年齢、そして家庭内外といった条件によって、使用される表現が異なることである。そのため、本アンケートでの、親から子供への表現に関する質問では、これらの条件を含めた質問が設定されている。

エジプト社会では、親から子供への呼称表現が年齢ごとに異なるということで、アンケートでは子供が小学校に上がるまでの6歳以下の子供への表現、それ以上の年齢から大人になる前までの表現、大人になってからの子供への表現という3つの場合に分けて質問している。もちろん、それぞれの子供の年代で使用される表現が他の年代でも使用されることもあり、特定の表現、そして特定の年代に限られたものではないことを強調したい。この結果については、4.1.で詳しく述べるが、ここでは、どのような種類の表現があるかについて具体例を提示しながら紹介する。

6歳以下の子供への表現には、多くの場合「個人名⁶」の他に、「あだ名、愛称表現」などが家庭内で使用されるが、他人の前でも使用されることがある。また、「Walad・Bint=少年・少女、Ibni・Binti=我が息子・娘」という表現もあり、地域や子供の年齢、そして使用場面等によってその使用状況が変わってくる。この表現の前半部である「Walad・Bint=少年・少女」は、親しみを表すこともあるが、他人の前の場合では、改まった場面を意識した呼びかけ語として使用される。一方後半の「Ibni・Binti=我が息子・娘」は親から子供へのやさしさを表す表現で、特に幼い子供に対して使用されることが多いが、より上の年代、大人になった子供に対して使用されることも少なくない。

最後の表現は、エジプト社会でよく使用される、日本語から見て特殊とも言える「Docto:r=医者、Ba:f Muhandis=エンジニア様」などの学位・役職名称を使った呼称方法である。この表現が職場等で実際の該当役職に就いている一般の相手に対して使用される場合は何ら不思議なことではないが、特殊なのは、親が自分の子供に対して敬称としてこの表現を使用するということである。本アンケート調査の結果では、役職名称の表現を子供に対して使用すると答えた人は少数派

⁶ 本稿での「個人名」とは、ほとんどの場合は、「下の名前」を指すが、それ以外の通称やミドルネーム及びファミリーネーム等の名前も含まれる場合もある。

で、子供や年下の相手に対して使用される一般的な表現ではないが、現代エジプト社会の様々な場面で広く使用されている表現であり、調査に値するエジプト社会の特徴的呼称表現の一つであると言える。

成人している子供に対して当表現を使用する場合、既に該当役職に就いていることが多いが、将来親が子供のために望む職名などでの呼称も頻繁に行われ、未成年の子供や未就学の子供に対してまで使用されることがあるというのが実情である。また、実際に該当役職に就いている成人した子供に使う場合は、我が息子・娘を誇りに思う気持ちの表れと思われる。

3.3. 兄弟姉妹および同等立場と年代の親族同士の呼称表現の例：

兄弟姉妹間の表現については、場面などによって使用される表現の敬意度は様々であると思われる。そのため、兄弟姉妹同士で使用される表現の敬意度について、「普通レベル、マイナスレベル、そしてプラスレベル」という三つの段階に分けた。通常は同年齢もしくは年下の兄弟姉妹同士においては、普通レベルとマイナスレベルが該当し、年上の場合は、普通レベルとプラスレベルが該当するということになる。

通常は、「個人名」が同年代や年下の弟妹に対して使用されるが、年上の兄姉に対しても使用されることがある。この表現の敬意度は、年下もしくは、同年齢の相手の場合は普通レベルになるが、年上（特に他人の前での使用以外で、年齢や学歴の差が大きい場合等）の相手に対して使用される場合は、マイナスレベルの表現として扱われることになる。

また、相手との親近感を表し、使用頻度が高いことで知られる表現としては、あだ名「愛称表現」が挙げられる。特に（年上の）兄姉に対して他人の前で使用される場合は、敬意度の判断が話し手と相手との関係のあり方次第で異なってくると思われる。他人の同席という改まった場面にもかかわらず、「愛称」などの表現が使用されることが確認されており、その場合は、話し手の性格や相手との親近感の程度の大きさを表しているということが読み取れる。

次に「**Walad・Bint**=少年・少女、**Ibni・Binti**=我が息子・娘」という表現については、上記の3.1.で、親から子供への表現の一つとして紹介したが、兄弟姉妹の間でも使用されることがあり、特に、年齢の差が小さく、社会的立場（学歴や職種とそのポジションによる出世レベル）の差が大きい場合の使用頻度がより高くなる。ただし、ほとんどの場合は、近い年齢の仲間同士の使用が多く、他人の前などの場面での使用頻度はそれほど高くないと思われる。あくまでもこの表現の使用条件と場面については、話し手と聞き手との関係（親近感の程度など）次第であり、また話し手の性格と改まった場面への意識も影響していると思われる。

その他として上記の3.1.で紹介した「**hagg/haggah**=巡礼者」という表現があり、様々な使用条件と使用場面が想定される。年下及び同年代の兄弟間で使用される場合もあれば、年上の相手に対して使用される場合もある。後者は、多くの場合敬意度プラスレベルの待遇表現として使用されるが、前者の場合は、尊敬の意図がない通常の呼称表現として扱われる。また、年下・同年

代の相手への使用は、実際に「巡礼」に行っているか否かに関係なく、個人名やマイナスレベルの表現を避け、一種の簡易な呼称方法として用いられるということになる。一方、年上への使用は、実際に巡礼に行ったことがある、もしくは巡礼の経験がない中高年の相手の場合でも、尊敬を表す要素が含まれ、待遇表現として使用される場合が多い。

次に、「**Abu**〇〇・**Umm**〇〇=子供の名+の父親/母親」というアラブ社会全体において幅広く使用される伝統的な表現がある。エジプトにおいては、実際に結婚しており、子供がいる人に対して長男⁷（娘しかいない場合は長女）の名前を用いて、その子供の名前の後に、（～のお父さん、お母さん）という表現で相手呼びかけることが、伝統文化における一般的な呼称方法の一つである。エジプト以外の一部のアラブ諸国において、この使用条件を超えた用法があり、相手が未婚でも、さらに子供の有無に関係なく、「**Abu**〇〇=子供の名+の父親」が使用される。相手が未婚、もしくは子供がいないにもかかわらず子供の名前が呼称の際に使用できる背景にあるのは、相手の父親の名前を確認する必要があり、その相手の父親の名前が将来孫にあたる相手の子供に付けられるという決まりごとのようなアラブの伝統的な考え方である。

最後は、「**Doctor**=医者等、**Ba:j Muhandis**=エンジニア様」などの役職・学位名称を使った表現で、相手への尊敬を示すものとして使用される。この表現が年上の相手に対して使用されることは言うまでもなく、使用頻度が非常に高いと思われるが、同年齢もしくは年下の相手に対しても敬意度プラスレベルの表現として使用されることもある。それは、同年齢および年下の相手でも、高学歴かつエリートと見なされる職種に就いている相手として、特に他人の前で使用する場合、年齢の差に関係なく相手への尊敬を表す手段として使用される表現である。

4. アンケート結果における親子間の家庭内外での呼称表現とその使用状況

以下では、エジプトアラビア語における親子間の親族呼称表現についてのアンケート調査結果を紹介しながら、その分析を行う。親子間の呼称・言及の表現に関する質問は、親から子供への表現の質問が1問、そして子供から親への表現の質問が5問あり、それぞれの質問で家庭内外の場面での表現とその使用状況について調べている。上記の調査方法の部分でも述べたが、すべての質問が多項選択式で、その多くが複数回答の質問であるが、単回答の質問もある。複数回答の質問が多いために、一人の回答者が一つ以上の回答を選択することになり、回答数が回答者数を大きく上回ることが多くなる。そのため、以下の回答結果の表で提示されている数字は、回答者数ではなく、回答総数からの各回答の数とその割合を表している。

⁷ 「**Abu**〇〇・**Umm**〇〇=子供の名+の父親/母親」の使用時の子供の性別については、特にエジプト社会の場合、第一子が息子ではなく娘でも、第一子としての長女の名前が使用されることがあるが、第一子が娘で第二子が息子の場合は第二子で長男としての息子の名前が使用されるケースのほうが多い。

4.1. 親から子供への呼称表現に関する質問の回答結果とその分析：

表1：＜親から子供に対する呼称表現についての質問への回答結果＞

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M ⁸	F ⁹	M	F	M	F	農村部	都市部	
「個人名」	37 ¹⁰	15	15	9	52	24	32	44	76
	29 ¹¹	17	47	27	31	22	29	26	27
「個人名」(他人の前のみ)	10	5	0	4	10	9	9	10	19
	8	6	0	12	6	8	8	6	7
「あだ名、愛称」など(幼い 子供の場合)	45	44	8	11	53	55	40	68	108
	35	51	25	33	31	50	37	40	39
「あだ名、愛称」など(親族 の人の前のみ)	16	12	3	5	28	8	13	23	36
	13	14	9	15	17	7	12	14	13
「Walad・Bint=少年・少女、 Ibni・Binti=我が息子・娘」(幼 い子供の場合のみ)	15	5	2	2	17	7	7	17	24
	12	6	6	6	10	6	6	10	9
「Walad・Bint=少年・少女、 Ibni・Binti=我が息子・娘」(親 族の人の前の場合のみ)	3	4	2	0	5	4	6	3	9
	2	5	6	0	3	4	6	2	3
役職名称:「Doctor=医者、Ba:f Muhandis=エンジニア様」	2	1	2	2	4	3	2	5	7
	2	1	6	6	2	3	2	3	3
合計	128	86	32	33	169	110	109	170	279
(%)	46	31	11	12	60	40	39	61	100

以表1では、親が子供に呼びかける時の表現について質問への回答結果を提示する。本質問の回答選択肢は複数あり、次のようになっている。まず、「個人名」を使った一般的な呼称方法である。個人名の使用は、一般場面での使用の場合と、限られた場面(他人の前など)での使用の場合という2つに分ける。また、あだ名などの「愛称表現」を使った呼称方法も使用場面別で分けられており、幼い子供への使用の場合と、親族の人の前での使用の場合という2つの回答になっている。

⁸ 「M」は(Male)の頭文字で「男性」を指している。

⁹ 「F」は(Female)の頭文字で「女性」を指している。

¹⁰ 本稿のすべて表の上段の数字は、回答数を示している。

¹¹ 本稿のすべての表で下段の数字は、男女別、年代別、地域別の各カテゴリーの回答数からの割合や全体の回答からの割合を(%)で示した数値を表している。

次に「**Walad・Bint**=少年・少女、**Ibni・Binti**=我が息子・娘」については、幼い子供への使用の場合と、親族の人の前での使用の場合の2つに分ける。最後は、「役職名称」を使った呼称方法で、特に親から自分の幼い子供に対してはそれほど多く使用されない表現ではあるが、一部の人によって使用されていると思われる。この表現の使用状況については、特に子供が成人で社会人の場合が多いが、子供が未成年の生徒・学生などの場合でも、親または子供が望む子供の将来の職名・学位名を使って呼びかけることもあり、エジプト社会で見られる独特な呼称表現の一つであると言える。

これらのうち最も多い回答数を占めたのは、「愛称表現」（特に幼い子供の場合）で、約4割を占めた。同表現の、親族の人の前での使用という回答結果は約13%で、両回答を合わせると、全体の半分以上を超えることになる。この表現を選択した回答者は、男性より女性のほうがやや多いが、若年層と中高年層の差はそれほどなく、地域別の差もそれほど見られなかった。このように、特に幼い子供に対して最も多く使用されるのが「愛称表現」であることが分かった。

次に多かった回答は、個人名での呼びかけで、3割弱を占めており、条件付き（他人の前のみ）の個人名での呼称の場合の回答は、約7%を占めた。次に多かった回答は、「**Walad・Bint**=少年・少女や**Ibni・Binti**=我が息子・娘（幼い子供への使用の場合のみ）」で9%を占めた。そして同表現を親族の人の前だけで使用すると答えた人が3%で、両回答の結果を合わせると12%になる。

最も回答数が少なかったのは、「**Docto:r**=医者、**Ba:fMuhandis**=エンジニア様」などの役職名称を使った表現で、全体のわずか3%であり、少数派の回答となった。この表現については、上述の通り、子供が社会人で実際の役職名での呼びかけの場合もあれば、未成年者の場合もある。前者の場合の多くは、役職名が社会においてエリートとされるような職種の可能性が高く、「自分の子供が誇らしい」という親の感情的な部分が大きいと考えられる。また、後者の場合、子供が未成年者、もしくは仕事ができる年齢から大きく離れた年齢（幼い子供）のケースもあり、この場合は、親による子供の将来への期待と望みという要素が強く、同時に子供への動機づけという目的があることも考えられる。

4.2. 子供から親への呼称表現に関する質問の回答結果とその分析：

① 子供から親への呼称表現

表2：<子供から親への呼称表現に関する質問の回答結果>

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
「Abi:／ Ummi=私の父／母」	14	10	2	3	16	13	16	13	29
	11	9	8	13	10	10	13	8	10
「Waldi／Waldeti=私の父親 ／母親」	6	5	2	1	8	6	9	5	14
	5	5	8	4	5	5	7	3	5
各地域方言での「父親／母親」 の意味を表す表現	38	9	9	2	47	11	31	27	58
	29	8	35	8	30	8	25	16	20
「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」 などの外来語	35	77	7	15	42	92	40	94	134
	26	72	27	63	26	70	33	56	46
「hagg／haggah=巡礼者」	37	5	5	3	42	8	24	26	50
	28	5	19	13	26	6	20	15	17
「Abu○○・Umm○○=子供 の名+の父／母」	3	1	1	0	4	1	2	3	5
	2	1	4	0	3	1	2	2	2
合計	133	107	26	24	159	131	122	168	290
(%)	46	37	9	8	55	45	42	58	100

表2は、子供から親への呼称・言及の表現についての回答結果である。選択可能な回答としては、「父親・母親」の意味を表す通常の表現の「Abi:／ Ummi=私の父／母」と「Waldi／Waldeti=私の父親／母親」、各地域の方言である親族語の表現が挙げられる。その他には、外来語の表現の「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」、そして「hagg／haggah=巡礼者」、「Abu○○・Umm○○=子供の名+の父／母」という伝統的で庶民的特徴を持った表現が挙げられる。

最も回答数が多かった表現は、「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」の外来語表現で、全体の半分近く（46%）を占めた。この表現の回答者の内訳としては、都市出身の回答者がより多く、女性回答者が非常に多いことが分かった。この表現を選択した回答者の半分以上は、30代以下の女性となっており、男性や他の年代の女性を大きく上回っている。また、年代について、若年層の回答者が中高年層の回答者より多かった。エジプトは日本と異なり、「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」を使用する人の多くは、特に直接の呼称表現の場合、大人になった人や中高年以上の年代の人でも年齢と関係なく、同表現をそのまま使用し続ける人が多いと思われる。しかし、大人になってからの言及表現の場合は、「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」の使用頻度は（特に男性の間で）低くなり、別の表現（通常の言及表現）の使用頻度が高くなることが以下の表4でも確認された。

次に多かった回答は、「父親・母親」の意味を表す各地域の方言での表現で、全体の2割を占めている。この表現を選択した回答者の内訳は、外来語の表現とは正反対の結果で、都市部より農

村部、そして女性より男性の回答者が多かった。このように、地域、性別そして年代の違いによって使用される表現が異なるということが多くの質問への回答結果で確認された。

3番目に多かった回答は、「hagg/haggah=巡礼者」という表現で、17%を占めた。この表現の回答者の多くは、農村出身で男性であることが確認できた。その次に多かった回答は、「Abi:/Ummi=私の父/母」という通常の書き言葉に近い表現で、全体の1割を占めた。最後の回答は、わずか2%しか占めなかった表現で、「Abu○○・Umm○○=子供の名+の父/母」というエジプトを含むアラブ全体の伝統的な呼称表現である。アンケート結果としては、この表現の使用率は低い結果になったが、近年エジプト社会において若者による両親に対しての（呼称・言及の表現としての）使用例が見られるようになってきている。当表現の通常の使用場面は、相手との年齢の差がそれほど大きくない場合が多く、年下から年上への使用が殆どであるが、年上から年下の相手への使用も時々見られる。しかし、子供から親への使用は異常な使用方法であり、親に対する子供の不適切な呼称方法として宗教や教育関係者に批判されることがある。

② 兄弟姉妹同士の、家庭内で使用される親への言及表現

表3：＜兄弟姉妹同士の、家庭内で使用される親への言及表現に関する質問の回答結果＞

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
父親/母親の意味を表す 「Elwa:lid/Elwaldah」	7	7	0	5	7	12	7	12	19
	6	7	0	20	5	9	6	7	7
各地域の方言での「父親/母親」を表す表現	51	15	14	3	65	18	50	33	83
	41	14	50	12	43	14	47	19	30
「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」 などの外来語	43	73	7	15	50	88	33	105	138
	35	70	25	60	33	68	30	62	49
その他の表現：「Elhagg/ Elhaggah=巡礼者」	22	9	7	2	29	11	19	21	40
	18	9	25	8	19	9	17	12	14
合計	123	104	28	25	151	129	109	171	280
(%)	44	37	10	9	54	46	39	61	100

表3は、家庭内（兄弟姉妹同士）での両親に対する言及表現についての回答結果である。選択可能な回答は4つあり、その中で最も回答数が多く、半分近く（49%）を占めたのは、「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」という外来語表現である。この結果は、直接呼称表現の結果と同様の割合になっている。当表現の回答者の内訳の結果も、直接呼称表現の結果同様、女性回答者が非常に多く、都市出身者が農村出身者より倍以上多かった。また、若年層の回答者がほかの年代の回答者より多いことも確認された。

次に多かった回答は、各地域の方言での「父親・母親」を表す表現で、3割を占めており、農村出身者、そして男性の回答者が多かった。その次に、3番目に多かった回答は、「Elhagg/Elhaggah

＝巡礼者」で14%を占め、農村出身者、そして男性回答者が多かった。この表現は、相手が実際に巡礼に行ったことがなくても、普通のように使用されるようになってきているが、特に使用される頻度が高いのは年配の人である。しかし近年の若者の間では、農村部のみならず、都市部でも親に対して使用される回数が多くなっており、上記の表2では直接呼称として17%、そして表3では言及表現として14%を占めている。

最後に、最も少なかった回答は、父親／母親の意味を表す「**Elwa:lid**／**Elwaldah**」という書き言葉に近い表現であり、7%であった。この表現を選択した回答者の内訳について、女性回答者（特に中高年の女性）が非常に多かった。地域別の割合については大きな差がなく、都市出身者が農村出身者をわずかに上回っている。

以上が家庭内での親への言及表現の回答結果であり、家庭外の回答結果については次の表4で紹介するが、家庭内と上記の一般の場面での直接呼称表現の回答結果やその利用状況と特徴について大きな違いは見られなかった。このことから言えるのは、両親への呼称・言及の表現は、家庭内外を問わず、ほぼ同様の使用条件と特徴になっており、子供から親への表現は場面の違いに関係なく、それほど大きな変化が見られないということが確認できた。

③ 兄弟姉妹同士の、他人の前で使用される親への言及表現

表4：＜兄弟姉妹同士の、他人の前で使用される親への言及表現に関する質問の回答結果＞

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
父親／母親の意味を表す 「 Elwa:lid ／ Elwaldah 」	18	2	4	4	22	6	6	22	28
	13	2	13	17	13	5	5	12	9
各地域の方言での「父親／母親」を表す表現	50	12	12	3	62	15	40	37	77
	35	11	38	13	35	12	34	20	25
「 Ba:ba =パパ、 Ma:ma =ママ」 などの外来語	34	78	7	13	41	91	35	97	132
	24	74	22	54	23	71	30	51	43
その他の表現：「 Elhagg ／ Elhaggah =巡礼者」	37	9	8	4	45	13	34	24	58
	26	9	25	17	26	10	29	13	19
Eddoctor =医者等、「 Elba:f Muhandis =エンジニア様	5	4	1	0	6	4	1	9	10
	3	4	3	0	3	3	1	5	3
合計	144	105	32	24	176	129	116	189	305
(%)	47	34	10	8	58	42	38	62	100

表4は、子供が他人の前での場面で自分の親について話す時に使用する言及表現に関する質問への回答結果である。選択可能な回答は、表3で紹介されている家庭内の場面での表現と同様の表現になっているが、学位・役職の名称の「**Eddoctor**=医者、**Elba:f Muhandis**=エンジニア様」の表現も加えられている。

回答結果で最も多かったのは、「**Ba:ba**=パパ、**Ma:ma**=ママ」という外来語表現で、43%を占めた。上記の表2と表3より少々少なくなっているが、これまでの呼称・言及の表現の結果同様、最も多い回答となっている。また、回答者の内訳について、都市出身者、そして女性の回答者がほかの回答者を大きく上回っている。年齢層については、30代以下の若年層の回答者が非常に多いことも確認された。

次に多かった回答は、各地域の方言での「父親・母親」を表す表現で、全体の25%を占めた。この回答を選択した回答者の内訳については、農村出身者が都市出身者を大きく上回り、男性が女性より圧倒的に多いことが分かった。この結果は、前記の「**Ba:ba**=パパ、**Ma:ma**=ママ」という外来語表現の結果と正反対の結果となり、それぞれの表現を選択した回答者の特徴とその出身地域の違いを表していると言える。また、この結果で、両表現の対照的な関係が明らかになり、農村部よりも都市部でより多く使用される外来語表現に対して、地域方言は都市部よりも農村部で多く使用されていることが明らかになった。

3位の回答は、約2割を占めた「**Elhagg/Elhaggah**=巡礼者」という表現で、男性回答者が非常に多く、出身地域別では、農村出身者が都市出身者より倍以上多かった。最後に約1割を占めた回答は、「父親、母親」を表し、書き言葉に近い表現である「**Elwa:lid/Elwaldah**」で、特に都市出身者と男性回答者のほうが他の回答者より多かった。年代別では、40代以上の中高年の回答者が若年層の回答者より多いことも確認された。

④ 親の同席時及び不在時の言及表現の違いと変化の確認

表5：＜親の同席時及び不在時の言及表現を変えるか否かに関する質問の回答結果＞

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
はい(その1)「表現の敬意度 を変える」	24	19	7	8	31	27	26	32	58
	23	19	29	35	24	22	25	21	23
はい(その2)「表現の敬意度 を変える(他人の前の場合の み)」	5	3	2	1	7	4	8	3	11
	5	3	8	4	5	3	8	2	4
はい(その3)「時々変える(相 手や話の内容等による)」	23	11	2	3	25	14	18	21	39
	22	11	8	13	19	11	17	14	15
いいえ、変えない	44	59	12	10	56	69	47	78	125
	42	59	50	43	43	56	45	52	49
わからない、考えたことがな い	10	8	1	1	11	9	5	15	20
	9	8	4	4	8	7	5	10	8
合計 (%)	106	100	24	23	130	123	104	149	253
	42	40	9	9	51	49	41	59	100

表5は、親に対する言及表現について、使用時に親が同席しているかどうかによって使用される表現を変えるか否かについての質問への回答結果である。この質問を通して、親の同席・不在による表現の変化の有無を確認したうえ、回答者による親への待遇表現への意識と正確な使用状況を明らかにすることを目指している。この質問での選択可能な回答は、表5の通り5つあり、「はい」のグループの回答が3つ、「いいえ」が1つ、そして「わからない、考えたことがない」が1つとなっている。

最も回答数が多かったのは、「いいえ」の回答で、全体の回答の半分近く（49%）を占めた。このように、回答者の半分近くの方は、他人の前での場面において使用する親への言及表現について、親の同席・不在によって言及表現を変えないと答えている。理由として考えられるのは、親への表現には、必ずしも尊敬を表す要素が含まれているとは限らず、表現の一部は、単なる親族語を使った呼称表現であるということである。この点は、「呼称表現と敬語」における日本語とアラビア語の両言語間の違いの一つであると言える。例えば、日本語の場合、「ウチとソト」の概念があるが、その概念について島田（2001）では、「日本人には内と外という考え方があり、内というのは自分の所属する世界のことで、外というのはそれ以外の世界のことを意味している」と述べられている。その概念により、親に対しての直接呼称の場合は、「お父さん・お母さん」が使用されるのに対し、言及表現の使用の際は、敬称の「さん」の使用は誤用となり、「父・母」に切り替わる。

一方でアラビア語には、そのような「ウチとソト」の概念もなければ、「父・母」、「おじ・おば」などの親族語に「さん」などのような敬称の使用もないため、半分近くの回答者が、親の同席・不在時の表現について「変更しない」と答えている。特に両親の例は典型的な例であり、その背景に両親への孝行と尊敬を強く命じた宗教の教えが大きなかかわりを持っていると言える。もちろん、宗教の教えでは、その子供から親への謙遜な態度について、「どのような場面でも」という前提で理解されている。しかし、親にとってより重要視されると思われるのは、家庭内より、他人の前での場面であるということは間違いのないと言える。そのため、両親への「待遇表現」の敬意度を変更しないと答えた人は、家庭内でも家庭外でも親への敬意度がもともと適切であるため、変更しないという意図であると考えられる。

ここで注目すべきもう一つの回答結果は、残りの「はい」のグループの回答である。「はい」のグループで、（親の同席・不在で敬意度を変える）を選択した回答者の割合は約4割で、「分からない、考えたことがない」が残りの1割近くを占めている。4割を占めた「はい」のグループの回答者は、意識的に場面に合った表現を選び、適切にその表現を変えていると回答している。「はい、変更する」のグループの回答者は、家庭内では適切な敬意度ではあるが、他人の前では敬意度を挙げようとする必要があると思っていると分析できる。

この回答の結果は大きく2つに分かれ、「いつも親への表現の敬意度が変わる」、そして「条件付きで敬意度が変わる」となっている。具体的には、表現の敬意度がいつも変わると答えたのが23%、相手や話の内容といった条件によって敬意度が変わると答えたのが15%、そして他人の前で使用する場合だけと答えたのが4%となっている。

最後の回答は、1割近くを占めた「わからない、考えたことがない」である。回答者は、それぞれ個々人の習慣と価値観を持っており、各地域社会の中での目上・年上の相手に対する表現の適切な敬意度によって、使用される表現が無意識に決まることがあると思われる。この事実を踏まえた上、恐らく、ここでの回答者の一部の人にとって、場面と相手に合った表現の変更と敬意度の調整などへの意識と理解がそれほど十分ではない可能性もあると考えられる。

⑤ 両親に対して使用される尊敬表現 (hadret-a-k=貴方様)

表6：＜両親に対する尊敬表現 (hadret-a-k=貴方様) の使用に関する質問の回答結果＞

出身地域	年齢層・男女別		30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部			
はい(その1)「いつも意識的に使用する」	31	21	9	13	40	34	29	45	74		
	31	22	43	57	33	29	31	31	31		
はい(その2)「使用するが、無意識的で子供の時から習慣として」	9	13	2	1	11	14	10	15	25		
	9	14	10	4	9	12	11	10	11		
はい(その3)「時々使用する(他人の前の場合のみ)」	10	11	3	3	13	14	8	19	27		
	10	12	14	13	11	12	9	13	11		
いいえ(その1)「周りの社会や家庭での環境では使い慣れていないため、使用しない」	31	21	4	4	35	25	26	34	60		
	31	22	19	17	29	21	28	24	25		
いいえ(その2)「同家庭メンバーに対して使う必要がないと考えるため、全く使用しない」	18	28	3	2	21	30	20	31	51		
	18	30	14	9	18	26	22	22	22		
合計	99	94	21	23	120	117	93	144	237		
(%)	42	40	9	10	51	49	39	61	100		

表6は、両親に対する「**hadret-a-k**=貴方様」などのような尊敬表現の使用状況についての回答結果である。当表現は、エジプトアラビア語で使用される数少ない尊敬表現の一つであり、一般的に初対面、そして目上・年上の相手に対してよく使用される。両親への「**hadret-a-k**=貴方様」という表現の使用はそれほど多くないが、一部の人によって使用されるため、本質問でその使用状況を明らかにする。ここでの相手は両親であるため、通常の手相手のような年齢や学歴という条件はないが、家庭内外の場面そして親族及び他人の前での場面の違いが想定される。

選択肢は「**hadret-a-k**=貴方様」の使用について、「はい」と「いいえ」という二つのグループであり、さらにそれぞれの選択肢にも細かい条件が記されている。まずは、「はい」と「いいえ」のグループごとの結果について、「はい」のグループが全体の回答数の半分以上を超え、53%を占めたのに対して、「いいえ」のグループが残りの47%を占めた。それぞれの回答選択肢にある使用上の詳細な条件を見てみると、この表現の正確な使用傾向がわかる。「はい」のグループには、「はい」その1、その2、そしてその3という三つの回答選択肢がある。「はい」その1は、「いつも意識的に両親に対して「**hadret-a-k**=貴方様」などの尊敬表現を使用する」で、全体の3割を単独で占め、「はい」のグループの半分以上を占めている。「はい」その2は、「この表現を使用するが、無意識的で子供の時から習慣として」で、11%を占め、「はい」その3は、「時々使用する（他人の前での使用の場合のみ）」で、同等の割合（11%）を占めた。このグループ全体の年代や地域別の回答者の内訳については大きな差がなかったが、年代別では、40代以上の回答者がやや多く、そして農村出身者より都市出身者のほうがやや多かった。

一方、「いいえ」のグループについては、「いいえ」その1とその2に分かれている。「いいえ」その1は、「周りの社会や家庭での環境では使い慣れていないため、使用しない」で、25%を占めた。これに対し、「いいえ」その2は、「使用する必要がないと考えるため使用しない」で、残りの22%を占めた。このグループの回答を選択した回答者の特徴としては、「はい」のグループとは正反対で、30代以下の回答者がやや多く、そして農村出身者が都市出身者よりやや多いという結果になった。この結果からわかることは、都市部では、家庭でのしつけや複雑な都会の社会の中での、子供から親への待遇表現が重要視され、結果的にこのような表現が都市部で農村部より多く使用されることにつながったと言える。また、この表現が30代以下の若年層より、40代以上の中高年の人に多く使用される傾向があり、年代別の待遇表現の使用傾向の違いを表す結果となった。

5. アンケート結果における兄弟姉妹間の家庭内外での呼称表現の使用状況

以下の表7から表10は、年下・年上の兄弟姉妹および同等の年齢や立場の親戚の相手への呼称表現に関する回答結果である。質問の内容は、年下・年上の別、そして特定の学歴・職種（医者やエンジニアなど）の場合に使用される表現についてである。また、兄姉に対して使用される待遇表現（日本語のお兄さん、お姉さんに当たる表現）の（**Abe:h**=お兄さん/**Ablah**=お姉さん）についての回答結果も分析する。

5.1. 年下の親族の人への呼称・言及の表現

① 年下（弟・妹など）の親族への呼称・言及の表現

表7：<年下（弟・妹など）の親族への呼称表現に関する質問の回答結果>

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
「個人名」	55	40	12	11	67	51	41	77	118
	26	24	32	30	27	25	22	30	26
「個人名」（他人の前での場合のみ）	20	13	2	4	22	17	19	20	39
	9	8	5	11	9	8	10	8	9
「あだ名、愛称」など	36	34	3	5	39	39	30	48	78
	17	21	8	14	16	19	16	18	17
「あだ名、愛称」（親族や知り合いの前での場合のみ）	28	33	3	5	31	38	26	43	69
	13	20	8	14	12	19	14	17	15
Walad/Bint =少年・少女、 Ibni/Binti =我が息子・娘	11	4	0	1	11	5	4	12	16
	5	2	0	3	4	2	2	5	4
「 hagg/haggah =巡礼者」	20	7	5	2	25	9	20	14	34
	9	4	14	5	10	4	11	5	8
Abu〇〇・Umm〇〇 =子供の名+の父/母	17	15	6	4	23	19	24	18	42
	8	9	16	11	9	9	13	7	9
「 Doctor =医者など、 Ba:f Muhandis =エンジニア様」	25	18	6	5	31	23	26	28	54
	12	11	16	14	12	11	14	11	12
合計	212	164	37	37	249	201	190	260	450
(%)	47	37	8	8	55	45	42	58	100

本質問の回答選択肢は合計で8つあり、まず「個人名」と「愛称表現」の両方の通常の場合と、他人の前での使用の場合の4つであり、その他に、「**Walad/Bint**=少年・少女や**Ibni/Binti**=我が息子・娘」、「**hagg/haggah**=巡礼者」、「**Abu〇〇・Umm〇〇**=子供の名+の父/母」、そして最後に「**Doctor**=医者等」、「**Ba:f Muhandis**=エンジニア様」の4つを挙げてある。

回答数が最も多かったのは、「個人名」の2つの場面の回答で、全体の3分の1以上を占めた。具体的には、無条件での「個人名」は、26%、そして「個人名を他人の前でだけ使用する」が9%を占め、「個人名」全体の合計を合わせると、約35%になる。この回答を選択したのは、40代以上、そして都市出身者が多かった。本質問は、年下の弟妹への表現に関する質問であり、年下に対しては「個人名」での呼称が待遇表現上の普通レベルの待遇性であるため、「個人名」の回答が最も多かったと考えられる。また、本回答を選択した人の多くが40代以上の中高年の人で、男性の割合が女性の割合を少々上回り、そして「敬意度マイナスレベル」の他の表現（後に紹介する）の使用率が低いという中高年以上の年代を代表する結果となった。

2番目に回答数が多かったのは、兄弟姉妹同士で使用され、親近感を表す「あだ名、愛称」などの表現で、「無条件で使用する」場合の回答結果は17%を占めたが、「他人の前での場合」の回答も近い割合（15%）となった。両方合わせると、32%になり、前記した「個人名」の回答割合と近い割合になっている。この回答に関しては、地域別の差がそれほど見られなかったが、年齢、男女の別では大きな違いがあった。具体的にみると、女性回答者が男性回答者より倍近く多く、そして30代以下の回答者が非常に多かった。

その他の回答については、1割強、もしくは1割未満になっており、その内の特徴的な表現の「**Doctor**=医者等、**Ba:j Muhandis**=エンジニア様」などの学位・役職名称を使った呼称表現は、全体の12%も占めている。エジプト社会では、相手が年下でも、上記の学位・役職が該当する相手であれば、尊敬を表す敬称としての使用されている。その背景には、高学歴の医者、エンジニア、そして大学教員などの人が社会で広く尊敬されるということが挙げられる。この回答を選択した回答者の内訳については、男女別の割合に近いが、男性のほうがわずかに多かった。40代以上、そして農村出身の回答者がほかの回答者よりやや多かった。

また、当表現が都市部より農村部で多く使用されることも特徴的で、農村部での教育率（特に、高等教育への進学率）は都市部に比べてはそれほど多くない。そのため、都市部よりも特に農村部において、高等教育まで進学した医者やエンジニアなどの相手（年下の相手でも）への尊敬が重要視され、学位・役職名を使った呼称表現が待遇表現として使用されることが少なくない。

次に、9%と8%の近い割合を占めたのは、「**Abu**○○・**Umm**○○=子供の名+の父/母」と、「**hagg/haggah**=巡礼者」という庶民的な特徴を持った二種の表現である。これらの表現は、40代以上の男性が他の年代の回答者より多く、そして農村出身の回答者が明らかに多い結果になっている。最も少なかった回答は、年上からが年下の親族の相手への、上下関係を表す「敬意度マイナスの」**Walad/Bint**=少年・少女」や、親しみを表す「**Ibni/Binti**=我が息子・娘」という表現であり、4%しかなかった。この回答を選択したのは、男性で30代以下の回答者が多かった。

このように、年代、性別、そして出身地域などによって呼称表現・待遇表現の使用状況は変化し、社会、そして各地域文化と習慣における男女・性別の違いに沿った適切な表現の使用が社会の中で自然に決まり、円滑なコミュニケーションに役立っていると言える。

② 医者・エンジニアなどの弟妹への呼称・言及の表現

表 8: <医者やエンジニア等の年下（弟妹など）の親族への呼称表現に関する質問の回答結果>

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
いつも使用する	21	9	4	6	25	15	15	25	40
	22	9	19	25	22	12	16	18	17
時々使用する（他人の前 の場合等）	58	41	13	11	71	52	61	62	123
	61	43	62	46	61	44	66	43	52
使用しない	16	45	4	7	20	52	16	56	72
	17	48	19	29	17	44	17	39	31
合計 (%)	95	95	21	24	116	119	92	143	235
	40	40	9	11	49	51	39	61	100

表 8 は、上記の表 7 でも言及した、「**Doctor**=ドクター(医者や大学教員など¹²)」、「**Ba:fMuhandis**=エンジニア様」などの学位・役職名称の呼称表現の回答である。このような表現はエジプト社会において様々な使用条件で使用されている。

上記の表 7 では、当表現を使用すると答えたのが全体の 12% を占めたが、この質問は、相手が既に医者やエンジニアの役職に就いている前提で設けられた質問である。しかし、エジプト社会においては、医学部や工学部に在学中の年下の弟・妹及び同等の年齢・立場の親戚に対しても、これらの学位・役職の名称を使った呼称表現が使用されると思われる。本質問では、医学部や工学部に在学中の弟・妹などの年下の親戚の相手に対して、敬称としての当表現が使用されるか否かということについて調べ、以下にその回答結果を紹介する。選択可能な回答選択肢は 3 つあり、「いつも使用する」、「時々使用する（他人の前での場合等）」、そして「使用しない」である。

最も多かった回答は、「時々使用する（他人の前での場合等）」で、全体の半分以上（52%）を占めた。この回答では、将来医者やエンジニアなどになる予定の弟・妹などの相手が、話し手から見て目下・年下の相手にもかかわらず、親族以外の他人の前での場面では、半分以上の人が尊敬を表す敬称としての当表現を使用する必要があると思っている。このことから、医学部・工学部などの特定の、エジプトでトップとも言われる学部 に在学中の弟・妹を相手にした場合、待遇表現としての将来の学位・役職の名称で呼びかけることが多いことが分かる。また、無条件で「いつも使用する」と答えた人の割合が 2 割近く（17%）を占めており、この割合を足すと、条件付きと無条件の「使用する」のグループの回答の割合が全体の 7 割近くになる。

これらの回答を選択した回答者の内訳としての大まかな特徴としては、女性より男性のほうがやや多く、そして農村出身者の割合が多かったことが挙げられる。その理由として考えられるの

¹² 役職名称などを使った呼称表現について、その他にも「警察大学校」や「士官学校」に在学中の人の例が挙げられる。

は、社会進出がやや少ない女性よりも、男性同士が他人の前で待遇表現を使用する場面が多いことと、社会における様々な要素を基にした上下関係のルールの重要さである。地域別の割合の差については、上記の他の質問への回答結果とその分析でも見たように、高学歴が伴っている役職名称への評価とそれによる使用が多いのが特に農村地域であることも主な特徴である。

一方、「使用しない」と答えたのは、残りの約3割の回答者で、恐らく、年下の相手に対して他人の前の場面であっても、敬称を使用する必要がないと思っているようである。「使用しない」と答えた人の内訳については、「使用する」の答えた人とは反対に、女性が多く、都市出身者が多いことが分かった。

③ 年上の（兄・姉などの）親族への呼称・言及の表現

表9：＜年上（兄姉など）の親族への呼称表現に関する質問の回答結果＞

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
「個人名」	44	32	5	10	49	42	33	58	91
	21	17	10	25	19	19	17	20	19
「個人名」（他人の前での場合のみ）	7	11	3	0	10	11	5	16	21
	3	6	6	0	4	5	3	5	4
「あだ名、愛称表現」（親族や知り合いの人の前のみ）	10	22	3	3	13	25	14	24	38
	5	12	6	8	5	11	7	8	8
兄・姉への尊敬表現：「 Abe:h ＝お兄さん／ Ablah ＝お姉さん」	9	19	3	6	12	25	15	22	37
	4	10	6	15	5	11	8	8	8
「 Walad・Bint ＝少年・少女、 Ibni・Binti ＝我が息子・娘」（年齢の差が小さい場合など）	6	3	0	0	6	3	3	6	9
	3	2	0	0	2	1	2	2	2
「 ƣamm/Xa:l ＝おじさん、 ƣammah/Xa:lah ＝おばさん・ Uncle・Tante 」（年齢の差が大きい場合など）	45	55	13	7	58	62	41	79	120
	21	30	27	18	22	28	21	27	25
「 hagg/haggah ＝巡礼者」	31	8	9	4	40	12	28	24	52
	15	4	18	10	15	5	15	8	11
「 Abu〇〇・Umm〇〇 ＝子供の名＋の父／母」	31	11	6	3	37	14	32	19	51
	15	6	12	8	14	6	17	6	11
Doctor ＝医者など、 Ba:f Muhandis ＝エンジニア様」	29	23	7	7	36	30	21	45	66
	14	13	14	18	14	13	11	15	14
合計	212	184	49	40	261	224	192	293	485
(%)	40	38	10	8	54	46	40	60	100

表9は、兄・姉および同等の年齢や立場の、年上の親戚の相手への呼称表現とその使用状況である。この質問での回答選択肢には、年下の質問と共通する回答もあるが、年上にしか使われない表現や、年上との年齢の差の違いによって決まる表現もある。その例としては、年上の兄・姉への尊敬を表す「**Abe:h**=お兄さん/**Ablah**=お姉さん」や、兄・姉との年齢の差が大きい場合の「**ʕamm/Xa:l**=おじさん、**ʕammah/Xa:lah**=おばさん、**Uncle, Tante**」などがある。

回答数が最も多かったのは、年齢の差が大きい兄・姉および同等の年齢と立場の親戚の相手に対して使用される「**ʕamm/Xa:l**=おじさん、**ʕammah/Xa:lah**=おばさん、**Uncle, Tante**」などの表現で25%を占めた。この表現を選択した回答者の地域別で見ると、都市出身者のほうが多いことが確認できる。以下にそれぞれの表現の回答結果を紹介するが、現代エジプト社会の地域の違い、そして年齢の差などによって、年上の相手への表現が決まることが見てとれる。例えば、農村部では「**hagg/haggah**=巡礼者」、「**Abu○○・Umm○○**=子供の名+の父/母」そして「**ʕamm/Xa:l**=おじさん、**ʕammah/Xa:lah**=おばさん」などの表現の使用率が多いのに対し、都市部では、「**Uncle, Tante**」や「**Abe:h**=お兄さん/**Ablah**=お姉さん」などの表現の使用率が高いということが挙げられる。

次に多かったのは、相手の「個人名」を使った呼称表現で、無条件での使用が19%、そして（他人の前での場合のみ）といった条件での使用が4%で、両方を合わせると23%で、全体の約4分の1を占めることになる。2番目に多かった回答は、14%を占めた「**Doctor**=医者、大学教員など」、「**Ba:f Muhandis**=エンジニア様」等の役職名称を使った呼称表現である。

その他の回答については、庶民的特徴を持つ、「**hagg/haggah**=巡礼者」と「**Abu○○・Umm○○**=子供の名+の父/母」の表現が同様の割合になっており、それぞれ11%ずつで合わせて22%を占めた。特にこの表現については、農村出身の男性によって多く使用されることが、これまでの回答結果と同様、特徴的な結果である。

次に多かった回答は、「あだ名や愛称」など（親族や知り合いの人の前のみ）で1割近くの8%を占めた。同様の割合を占めた回答は、年上の兄弟姉妹への尊敬を表す「**Abe:h**=お兄さん/**Ablah**=お姉さん」である。最も少なかった回答は、「**Walad・Bint**=少年・少女、**Ibni・Binti**=我が息子・娘」（年齢の差が小さい年上の相手の場合）で、わずか2%であった。更に、この表現の回答者は、30代以下の回答者だけになっており、年上の相手に使用されるべきではない表現として、最も低い回答数になっている。この結果から、エジプト社会においては上下関係を基にした呼称表現への意識が高く、特に年上の相手への適切な待遇表現の使用が実現されていることを表していると言えるだろう。

④ 年上の兄弟姉妹への「Abe:h=お兄さん/Ablah=お姉さん」という表現の使用状況

表 10 : < 姉妹への「Abe:h=お兄さん、Ablah=お姉さん」の使用に関する質問への回答結果 >

年齢層・男女別 出身地域	30代以下		40代以上		男女別小計		地域別小計		合計 (%)
	M	F	M	F	M	F	農村部	都市部	
いつも使用する	4	8	2	5	6	13	10	9	19
	4	8	10	21	5	11	11	6	8
特定条件で使用する（年齢の差 が大きい場合）	10	30	5	4	15	34	16	33	49
	10	32	24	17	12	29	17	22	21
時々使用する（他人の前の場合 等）	11	10	2	4	13	14	14	13	27
	11	11	10	17	11	12	15	9	11
使用しない	75	47	12	11	87	58	52	93	145
	75	49	57	45	72	50	57	63	60
合計 (%)	100	95	21	24	121	119	92	148	240
	42	39	9	10	51	49	38	62	100

表 10 は本論の最後の親族呼称表現に関する質問への回答結果である。本質問では、特にエジプトアラビア語で一部の人によって使用される「Abe:h/Ablah」という表現について調査した。この表現は日本語の「お兄さん、お姉さん」に該当し、語源がアラビア語ではなく、トルコ語である¹³。この表現は現在それほど使用されていないが、アラビア語圏、特にエジプトで特定の条件のもとで使用されるケースがある。回答選択肢は、「いつも使用する」、「特定条件（年齢の差）で使用する」、「時々使用する（他人の前での場合のみ）」、「使用しない」となっている。

最も回答数が多かったのは、「使用しない」で6割を占めた。回答者の内訳については、男性が著しく多く、若年層の30代以下の人が大半を占めている。この結果からうかがえる当表現の使用上の特徴としては、特に女性、そして中高年の世代の間での使用頻度が高いということが挙げられる。その一方、若年層の人による使用率が低いのは、若者の間では古い表現だと思われるからか、当表現は時間が経つにつれ使用率が低くなってきていると考えられる。

次に、「Ablah=お姉さん」以外の意味と用法について述べる。まず、エジプトアラビア語では、「Abe:h」が「お兄さん」以外に使用できないのに対し、「Ablah」は、「お姉さん」の用法以外にも「女性の教師」という意味も持っており、現在に至っても、この意味での用法が非常に一般的で、高校までの一般の（特に国公立の）学校では、女性教師に対して普通に使用されている表現である。

¹³ 「Abe:h/Ablah」という表現について、エジプトアラビア語の発音通りに表記されているが、語源のトルコ語では、「Ablah」が「Abla」（竹内和夫 1996, 2000）、そして「Abe:h」が俗語としての「Abi」（James W. Redhouse, Sir 2000）となっている。

その他の回答については、「使用する」のグループの回答で2番目に多かった「特定条件で使用する」（年齢の差が大きい場合）で、21%を占めた。その次に多かった回答は、「時々使用する（他人の前の場合等）」で、11%を占めた。これらの回答は、女性回答者が男性回答者を上回っており、中高年の回答者がやや多く、上記に述べた当表現の使用上の特徴を裏付ける結果となった。

最も少ない回答は8%の「いつも使用する」で、「使用する」グループの3つの回答を合わせると、全体の4割になる。このように、「**Abe:h/Ablah**」は広く使用されていないと思われる表現にもかかわらず、条件などがつくると、その使用率が4割ほどにも達し、エジプト独特の待遇表現であると言える。

5. 最後に

本稿では2016-2017に実施したアンケート調査の概要と、親子・兄弟姉妹間の呼称表現の具体例とその使用状況に関する調査結果を紹介した。上記の分析で見えてきた通り、書き言葉としての公式な文語のアラビア語には、文法項目としての「敬語」がないが、アラブ諸国の各国の方言には待遇表現が数多くあると考えられる。現代のエジプト人が日常会話で主に用いるのは、先ほどの文語のアラビア語ではなく、口語のアラビア語（エジプト方言＝エジプトのアーンミッヤ）である。

現代のエジプト社会は、古代エジプトからローマ時代、キリスト教時代、そしてイスラーム教時代といった多様な宗教と文化を経てきた。特にオスマントルコ時代、そしてエジプトの近代化時代とも言われる1805年から始まったムハンマドアリー朝における多面的な変化と影響が、現代にいたるまでまだ残っている。そのため、多くの文化交流や異なった価値観を持った言語・文化と他社会との交流などのおかげで、言語（特に口語のアラビア語）にも大きな影響が出たといっても過言ではない。文語のアラビア語は、イスラーム教の誕生から文法が全く変化しておらず、14世紀以上前からそのまま使用され続けてきた。また、イスラーム教の聖典であるクルアーンが書かれた言語として、その聖典のクルアーンがアラビア語の文法の規範になり、変化が認められない性質を持つようになった。この現象がアラビア語母語話者として事実として受け入れられることによって、日常生活では、「正則のことば」と言われる文語のアラビア語より、口語としての各国・各地域の方言が主として使用されるようになった。そして、変化が認められない文語のアラビア語とは異なり、口語が徐々に変化していった。

このように、文法の規則に拘束されない口語としてのエジプトアラビア語の場合は、時代と共に多様な文化と価値観を柔軟に受け入れ、外国の文化との交流の機会が多くあった。また、これらの要素を背景に、エジプト独自の待遇表現が生まれ、徐々に使用されるようになってきた。このことは、他のアラブの国や地域についても同様に起きていることも考えられ、それぞれの国と地域独自の待遇表現などがあると言える。もちろん、そのような待遇表現には、各地域と社会に合うように多様な使用方法が生まれてきたと言える。

上記の回答者の内訳の結果を見てわかるように、それぞれの表現に、性別、地域別、そして年代別などの特徴と使用傾向があり、様々な自己と相手との関係と、場面の要素を基にした使用条件が決まっていることも確認してきた。本アンケートでは呼称表現等の待遇表現の選択に影響す

るもの、そして待遇表現の使用の有無とその敬意度を左右する要素について回答してもらった。その結果（回答数が多い順）が、「家庭」、「宗教」、「学校教育」、「周りの環境・社会（職場・学校の仲間や地域など）」、「メディア・映画・ドラマ等」となっている。

また、日本語とアラビア語の違いがはっきりと現れた調査結果の一つに、「両親への表現を他人の前での場合変更するか否か」という質問の回答結果で、敬意度を変えないという回答が最も多かったという回答結果が挙げられる。この結果では、日本語とアラビア語の文化の違いが表れており、「ウチとソト」の文化が根強い日本では、場面、相手・聞き手、そして話題の人物などの違いによって使用される呼称・言及の表現とその敬意度が異なる。しかし、エジプトの場合は、すべての場面ではそうとは限らず、「ウチとソト」、そして場面や聞き手などの条件を問わず、尊敬すべき相手に対する表現とその敬意度を変えずにコミュニケーションをとる場合が多い。むしろ、家庭外での場面において、他人の前で「両親」を指す際に両親への敬意度を通常の家内での場面より上げたりすることも、アラブ・エジプトの文化では十分あり得ることである。両親以外の年配の人や目上の人にも同様のことが言えるが、特に両親の例が最も典型的な例であり、この質問の回答結果で日本とエジプトの言語・文化の違いの一つについて明確にできたと考える。

本論でのエジプト社会とアラビア語についての説明を踏まえ、各質問への回答結果で紹介してきた。親子・兄弟姉妹間の呼称表現は、次のように多様な表現になっている。まずは、通常の親族語や相手の名前などを使った呼称方法、そして、「愛称」の表現の他に、エジプトの調査対象地域の方言による親族呼称表現である。これらの表現は、文化や言語が異なっても共通している普遍的な親族呼称表現である。しかし、上記にも紹介してきた通り、エジプト社会の特徴を表す他の表現もあり、「hagg/haggah=巡礼者」、「Abu○○・Umm○○=子供の名+の父/母」、そして「Doctor=ドクター（医者や大学教員等）、Ba:f Muhandis=エンジニア様」などの表現も挙げられる。また、外来語表現である「Ba:ba=パパ、Ma:ma=ママ」や「Uncle、Tante」などの表現も子供のみならず、大人でも、（特に都市部の）多様な人によって広く使われている表現である。更に、外国語とは意識されないが、トルコ語由来¹⁴の「Abe:h=お兄さん/Ablah=お姉さん」という待遇表現もあることを紹介した。このように、社会と文化の多様性とそれによる変化に簡単に適応しない文語のアラビア語の代わりに、社会の変化に柔軟な口語には、親族呼称表現を一例として数多くの呼称表現が存在し、「場面と相手」に関する様々な条件を配慮したうえで使用されていることを、本稿で明らかにできたと考える。

（えしーば むはんまど・人文公共学府 博士後期課程）

¹⁴ トルコ語の「Abla」という言葉は、竹内和夫（1996）『トルコ語辞典』と竹内和夫（2000）『日本語トルコ語辞典』で記載されており、「姉、姉さん（他人に対して）」という意味で紹介されているが、「Abe:h」に当たるトルコ語の言葉が同辞典では見つからなかった。James W. Redhouse, Sir (2000) "Redhouse Turkish/Ottoman-English dictionary" というオスマントルコのトルコ語英語大辞典では、「Abi」が俗語として記載されているのが確認でき、次のように説明されている。「Abi Slang for Agabey, Elder Brother」=「(Agabeyの俗語として、お兄さん)」（筆者訳）。

参考文献：

エシーバ ムハンマド (2014) 「アラビア語の人称代名詞について」『千葉大学ユーラシア言語文化論文集 第 16 号』千葉大学ユーラシア言語文化論講座 Pp. 141-151

エシーバ ムハンマド (2016) 「アラビア語における人称・呼称の表現とその待遇的使用について」中川裕 編『言語と地域社会』千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 第 302 集 Pp. 42-69

エシーバ ムハンマド (2017) 「エジプトアラビア語における親族呼称表現に関する研究—夫婦間の呼称・言及の表現とその使用状況に関するアンケート調査の結果を中心として—」『千葉大学ユーラシア言語文化論文集 第 19 号』千葉大学ユーラシア言語文化論講座 Pp. 83-109

島田めぐみ (2001) 『わかるビジネス日本語：「BJT ビジネス日本語能力テスト」入門』アスク出版 P. 57

竹内和夫 (1996) 『トルコ語辞典』大学書林 P. 2

竹内和夫 (2000) 『日本語トルコ語辞典』大学書林 P. 15

James W. Redhouse, Sir (2000) "Redhouse Turkish/Ottoman-English dictionary" Sev Matbaacilik Ve Yayincilik, Turkey. Pp. 44